

授業科目名	嚥下障害Ⅱ	授業形態	講義	配当学期	2年（前期）
担当教員名	田中 和親	単位数	1単位	時間数	30時間
授業概要 学習目標	<p>〔授業概要〕</p> <p>摂食嚥下障害は、小児から成人にいたる幅広い年齢層において起こりうる障害で、言語聴覚士がかかわる重要な業務として言語聴覚士法に定められている。嚥下障害Ⅱでは、適切な評価について学習する。</p> <p>〔学習目標〕</p> <p>評価・検査・診断について理解を深める。</p>				
授業回数	授業内容				
第 1 回	摂食嚥下障害の評価①				
第 2 回	摂食嚥下障害の評価②				
第 3 回	摂食嚥下障害の評価③				
第 4 回	摂食嚥下障害の評価④				
第 5 回	摂食嚥下障害の評価⑤				
第 6 回	嚥下内視鏡検査・嚥下造影検査①				
第 7 回	嚥下内視鏡検査・嚥下造影検査②				
第 8 回	嚥下内視鏡検査・嚥下造影検査③				
第 9 回	摂食嚥下障害におけるリスクについて①				
第 10 回	摂食嚥下障害におけるリスクについて②				
第 11 回	演習①				
第 12 回	演習②				
第 13 回	演習③				
第 14 回	演習④				
第 15 回	まとめ				
評価方法	定期試験（100%）				
教科書 参考図書	〔教科書〕 標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学（医学書院）				
履修上の 留意点	口腔から咽頭、食道にかけての解剖生理学的知識が必須になります。実際の動きを思い浮かべながら学習をしましょう。				
メッセージ	食べることは生きること、生きることは食べること。生きる上で最も重要な食べることについて専門的な知識や技術を学び、支援のできるセラピストを目指しましょう。				